

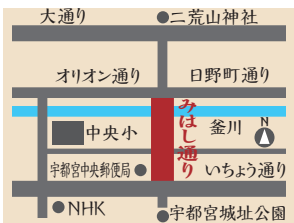


▲明治時代後期の御橋 (石井敬夫コレクションより)

みはし通り

みはし通りは、二荒山神社と宇都宮城を結ぶ橋である「御橋」から名付けられました。宇都宮城主がこの「御橋」を渡って二荒山神社に参拝したといわれています。左上の写真にもある通り、明治時代の橋は木で作られていたようです。戦前は税務署や市役所、戦時中は近くに憲兵隊の詰め所があり、準官庁通りでした。私が子どもの頃は、今の宇都宮城址公園でサーカスがあったり、釜川で打ち上げ花火が行われたり、この通りにはさまざまな思い出が刻まれていきますね。釜川で天然のウナギが捕れたという話もあるんですよ。その後、済生会病院が建ち、たくさんの人通りがありました。平成17年

▶現在の御橋



時代の変遷と共に、がらりと表情を変えるみはし通りですが、ここには明治創業の旅館や古くからある八百屋など、老舗店舗が何件もあります。最近では、若者向けのカフェや居酒屋も増えてきて、老舗と若者向けの店が混在し、独特の雰囲気を作り出しています。二荒山神社と宇都宮城をつなぐ歴史軸であるみはし通り。たくさんの人に來てもらって、活気のある通りになってほしいですね。

には街路が整備され、電線が地中化になりました。歩道は雰囲気のある石畳で、歩く人を楽しませてくれます。



▲大正6年の市内地図 (石井敬夫コレクションより)

うつのみや路物語

宮ストリートストーリー

みち路の数だけ物語がある。うつのみやの路を紹介します。



みはし通り商店会
会長
小林 皓二さん